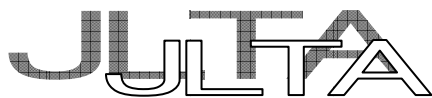


日本ことば療法学会



Japanese Language Therapy Association

発行 一般社団法人発達支援協会 年2回発行(6月・12月)

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98

TEL&FAX: 052 (505) 5255

<http://www.seepa.jp/u/nihon-kotoba-ryohou-gakai>

Eメール: takada@aroma-nagoya.com 発行人: 堀田喜久男

第2期生 30名募集 8月開始

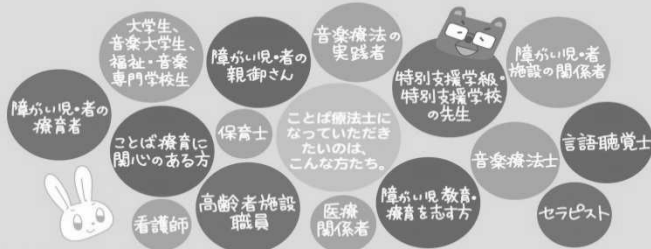
日本ことば療法学会 認定

【ことば療法士】



第1期生
30名

ことば療法士 講習会 (横浜学会 3/29)



ことばを伝えたい人たちに
ことばをうながす
手助けができるのが
ことば療法士です

日本ことば療法学会からのお知らせ

◆ことば療法士への道◆

■ことば療法士 申し込みの流れ

- ①ことば療学会への入会 (下記HPより申込用紙をプリントアウトし必要事項を記入後FAX)
- ②3,000円(年会費) + 7,000円(教本3冊/課題審査費用)の合計10,000円をお振込みください。
- ③振込が確認されると、学会より教本(3冊)を送付します。
- ④教本の到着。その後は各自教本にて勉強を進めていってください。

■ことば療法士 認定までの流れ ◆ポイント制

- ・セミナーや課題提出、実践などにより必要ポイント(20ポイント)を獲得
- ・書類(学会申請書/ポイント書類+証明書)提出
- ・内容の査定→面接(学会開催時) →【ことば療法士】に認定
- ・登録料: 10,000円(5年毎更新)

◆ポイント制とは◆

資格や職業内容、セミナー参加やレポート提出、療法の実践(セッション)、といった実績に加算される独自のポイント制度です。取得期限はありません。ポイント数についての詳細はHPをご覧ください。



日本ことば療学会 検索

一般社団法人
発達支援協会 事務局
〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98
TEL&FAX: 052-505-5255
<http://www.seepa.jp/u/hattatu>
メール: takada@aroma-nagoya.com

委員長 堀田喜久男
一般社団法人 発達支援協会理事長
金沢大学大学院 人間学部助産師・言語療法学科 非常勤講師
発達音楽研究所主宰

副委員長 高橋亮太郎
株式会社 キートン 代表 (音楽療法セッションの提供サービス)
日本音楽療法学会認定音楽療法士
コロソド国立大学 神経学的音楽療法フェロ会員

副委員長 後藤浩子
子役医学心理学(薬)研究室 副代表
臨床心理士・日本音楽療法学会認定音楽療法士

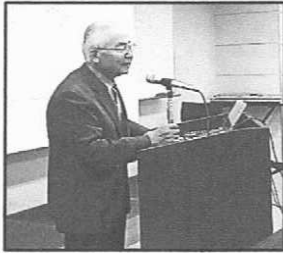
委員の紹介
日本ことば療学会

HPに申し込み用紙掲載

♥INDEX♥

ことば療法士 第2期生 募集開始	1
第2回日本ことば療学会～横浜～報告	2
学会講師からのメッセージ	3
支援学校高等部を卒業したAさん (松浦光子)	4
集団セッションから～個別セッション (平松智子)	
言葉が出にくくなったS君 (加藤千子)	5
発語を促し学習能力を育てる音楽療法 (堀田 喜久男)	6
コラム (央戸理恵)・発語音楽教材の紹介(発語音楽療法)	7
認定教室の紹介 / 事務局より	8

第2回 日本ことば療法学会 IN 横浜



日時：2014年3月29日30日（土曜日・日曜日）

会場：横浜市技能文化会館 大研修室

神奈川県横浜市中区万代町2-4-7

主催：一般社団法人 発達支援協会

本年度は2日間の日程となり、1日目は日本ことば療法学会認定の『ことば療法士』を目指される方の講習会です。障害児・者や高齢者の方々へのことばの療育を幅広く勉強して頂きました。2日目の学会の本年度テーマは『楽・技・喜』です。楽しい技術は相手を喜ばすことが出来、それがことばや自己表現に繋がっていきます。2日間で約100名の方に参加して頂き、様々な角度から言葉を考えることが出来た2日間でした。ことばの療育指導に少しでもお役立つことができれば幸いです。

委員長 堀田喜久男



平成26年3月29日(土)
「ことば療法士」講習会
(学会ポイントセミナー)
募集人数：60名 時間：10:00～17:30 (6時間30分)
＜9:30より受付＞

●内容と講師紹介●

■堀田 喜久男 (ぼったきくお) - 「発語音楽療法」：2時間
一般社団法人 発達支援協会 理事長
日本音楽療法学会認定 音楽療法士
金城学院大学人間学部 芸術・芸術療法学科 非常勤講師
発語音楽研究所主宰

■後藤 浩子 (ごとうひろこ) - 「障害児・者のことばのワークショップ」：1時間
予防医学心理学 (楽) 研究室 副代表
臨床心理士・日本音楽療法学会認定音楽療法士

■増田 光音 (ますだみつね) - 「高齢者への音楽療法」：1時間
ミュージックインストラクター養成学院 学院長

■徳田 和恵 (とくだかずえ) - 「ことば療法の基礎」：1時間
情緒障害児短期治療施設、聴覚幼児通園施設、知的障害児通園施設、
国際医療福祉大学大川キャンパス等勤務を経て、
現在福岡国際医療福祉学院 言語聴覚士、臨床発達心理士

■高橋 亮太郎 (たかはしりょうたろう) - 「介護予防における発語・発音機能強化プログラム」：1時間
株式会社 キートン 代表取締役
日本音楽療法学会認定音楽療法士
コロラド州立大学 神経学的音楽療法フェロー会員

ことばやコミュニケーションに関する、子どもさん達への発達支援ニーズは、近年非常に大きくなっています。さらに、ことば・コミュニケーションは、子どもから大人・高齢者の方々すべての年齢に亘ってのQOLを支えるひとつでもあります。ことば療法士は、日本語の韻律とことばをベースとして楽しさとユーモアにあみだれた場での支援を実現しようとしています。皆さんも日本語を味わいながら受講していただけることを願っています。
(徳田 和恵)

平成26年3月30日(日)
第2回ことば療法学会
テーマ【楽・技・喜】
募集人数：60名 時間：10:00～16:00 (5時間)
＜9:30より受付＞

総司会：高橋亮太郎

●基調講演 / 10:10～12:00

●渡辺 顕一郎 (わたなべけんいちろう)・・・10:10～11:20
日本福祉大学 子ども発達学部 子ども発達学科教授
『障害児の自立を見据えた発達支援・家族支援』

●赤崎 倫夫 (あかさきみちお)・・・11:20～12:00
企業組合 カトリア・サービス 代表
『個別セッションと集団セッション』

●昼食休憩・・・12:00～13:00

●シンポジウム 進行役：松浦光子・・・13:00～14:00

●「ことば療法の職域」
障害児・者のことばの発達につながる楽しい知識、技能を修得すれば喜びとともに職の領域は広がっていく。
シンポジスト：風間千寿子、穴戸理恵、加藤千子、深谷靖子

●研究発表 (質疑応答含む) / 14:10～15:50

●土田 靖子 (つちだやすこ)・・・14:10～14:40
さゆり学院 主宰
『歌にのってことばがだせたよ
～言葉の音楽療法における効果』

●三谷 麻子 (みたにあさこ)・・・14:45～15:15
日本音楽療法学会 認定音楽療法士
『マレーシアでの障害児、者教育の報告』

●竹森 若緒 (たけもりわかお)・15:20～15:50
ことばたまご塾 主宰
『ことばたまご塾の実践と教材』

●終了・・・16:00

お申し込み方法は裏面をご覧ください。

日本ことば療法学会は 障害児・者のことばの療法を調査・研究、発表、実践を通して療法の普及並びに増進を図り、障害児・者のことばの獲得、言葉によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

講師よりメッセージ（レポートを読まれて）

堀田喜久男:基本構造で、リズムの機能、日本語の音節、言葉の抑揚、音節分解、抑揚補助技法などはよく理解できていたと思います。展開で、1音節の発音（発語）、体の部位の歌、2音節語、3音節語、多音節語、数の導入、オノマトペの効果、本読みで、抑揚補助技法の活用なども理解が進んだと思います。発語音楽療法を実践されている方で音節分解の大切さを再認識したとの報告がありました。またセッションの実際をDVDで見れたのでよかったとありました。これらの事を取り入れて次回（第3回の学会）は多くの展開を紹介します。



増田 光音:皆様の熱心なレポートに大変感動を覚え、私自身、身の引き締まる思いでございます。もっともっと色々お伝えしたい衝動をも抑えることが出来なくなりました。レポートを拝見しまして、各々の知りたい事、各々が気付いた事などに焦点を当ててまとめられている事で、何をお知りになりましたか良かったのが良く分かりました。皆様の生きた文章に感動致しました。



徳田 和恵:私のプレゼンテーション能力の至らなさをものともせず、皆さんがご自分のことばで取りまとめ表現されていることに感銘しました。子ども達との時間は理論通りにいかないことばかりですが、日々の実践で四苦八苦しながら、時折、ことばの発達に関する先達の文献を読むことで、また新たな道が見えることと思います。私ももっともっと学びたいことがたくさんあります。皆様もどうぞ迷わずご自分なりの支援の方法を確立されていけますように。



高橋 亮太郎:皆さまお元気ですか。W杯で見る世界の人々は喜怒哀楽が大きいですね。それによく食べます！クライアントの皆さんだって本当はもっとしゃべって感情や考えを表現し、自分の好きなものを食べたいことでしょう。施設や在宅にあっても彼らの口腔機能訓練を楽しく取り組み易くすることでそのQOLがより高いものになるよう、私達は音楽♪のチカラを生かして頑張っていきましょう。



後藤 浩子:講習会では、ことば以外のもの（表情とかジェスチャーなど）をいかすことの大切さを実際に体験していただきました。皆さんそれはそれは真剣でした。伝える側は、どうにか伝えよう、と楽器や表情で必死に表現しておられました。また、そのことばを当てる側は、理解しようと、食い入るように観察して、ああでもない、こうでもない、と発言しておられました。この時間を通して、伝えたいと思う人と理解しようとする人との心が砕いて表現することの大切さを実感していただけたのではないのでしょうか。皆様の表現力に感服する時間となりました。ありがとうございました。

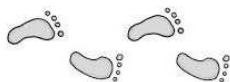
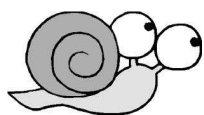


支援学校高等部を卒業したAさん

舞鶴支部 支部長 松浦光子

ADHD(注意欠陥多動性障害)のAさんとは、勤務先の音楽教室でピアノを受け持った時からの付き合いで、10年になります。椅子に座ってピアノに向かうことがむずかしく、レッスン以上にコミュニケーションの取り方に悩んだ日々を懐かしく思い出します。お母様とも相談し私たちが始めたばかりの、乳幼児の発達支援の会「でんでんむし」にも参加してもらうようになりました。当時は、堀田メソッドを知らず、手探り状態での毎日で苦労をしましたが、堀田先生を知り、本を読み返し、講義を聞き、セミナーに参加して勉強を重ねました。Aさんの気になった言葉の不鮮明も少なくなり、Aさん自身も成長し、高等部に進んでからは、「時計が読めるようになりたい」「おつりの計算ができるようになりたい」等の目標を自分から話し、頑張りました。Aさんは、時計は読めますが、何分後など経過は理解できないこと、筆算はできるが暗算はできないため、おつりが渡せないことを悩んでいたのです。これらはすべて堀田先生から学んだ教材が役立ちました。

支援学校卒業後、調理師希望のAさんは、調理師専門学校へ進学し、片道1時間かかる学校へ通っています。支援学校卒業と同時に「でんでんむし」も卒業予定でしたが、Aさんとお母様の希望でもうしばらく「でんでんむし」に顔を出してくれます。堀田先生のおかげで、Aさんの支援ができたこと、本当に嬉しく感謝しています。これからも勉強を続け、もっと多くの子供たちの成長のお手伝いができるよう努力していきたいと考えています。



堀田メソッド 集団セッションから個別セッションへ

企業組合カトレア・サービス

アーチしばた児童心身発達センター

平松智子

アーチしばた児童心身発達センター(児童発達支援)では、今年度4月より、堀田メソッドの個別セッションを行っています。昨年度までは週2回、堀田メソッドの集団セッションをおこなっていました。対象者(グループ編成)は毎回ちがい、年齢も障害も様々(3歳~5歳)なため、成長に合わせたプログラムではなく、集団用のプログラムを作成いただき、堀田喜久男先生に直プログラムがあったり、お友達が気になって集中できなかつたりといくつかの問題点があり



ましたが、もちろんそれぞれに好きなプログラムもあり、好きなプログラムの際は積極的に参加している姿も見られました。

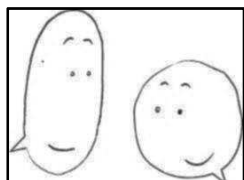
児童発達支援の活動として、ひとりずつ順番に個別セッションを行っています。個別セッションを開始して2か月、子どもたちの変化は様々で集団では周りが気になってなかなか座れなかった子が、個別になるときちんと座り、メソッドを30分集中して受けている姿もみられます。発声・発語としての変化を評価できる子はまだいませんが、参加姿勢に変化を感じることは多々あります。堀田先生に一人ひとりのプロフィールやメソッド以外の様子をお伝えし個々に合わせたプログラムを作成していただいています。現在はまだ試しながら一人ひとりの表情をみて行っています。また保護者の方の希望も聞き取り先生にお伝えしプログラムに反映できるようにと考えています。保護者の方にも数か月に1回はセッションに同席頂き、どのようなことを行っているのかを実際目で見て知っていただき、自宅でも応用したり、子どもがふとした時に口ずさんだとき一緒に歌っていただいたり活用いただければと思います。個々の成長に寄り添い、気長に、子どもたちの言葉と出会う日を楽しみにしています。

「交通事故で言葉が出にくくなったS君への指導について」

加藤音楽教室（埼玉県）

主宰 加藤 千子

私がことば療法をおこなった中で、交通事故で左脳に障害が出て、ことばがおかしくなったS君は初めてのケースでした。急に正常の子供から障害児のなってしまったS君とお母さんは、ショックが強く、私が、どこを重点的に指導をしてほしいかと要望を聞いてもまったく返答しないので、S君の様子を見ながらどこが一番障害になっているかをさぐるセッションからはじめました。一般の会話は、さほど苦にはならないけれど、堀田先生のCDの「言葉をふやす連想しりとし歌」をかけたらず、まったく歌わず、どうも早すぎてついていけないと気づき、「2おんせつ2ごぶんのうた」のCDにかえると、こんなのは小1のぼくにはつまらないという顔をする。本当は、ポケモンの「XYの歌」というのが歌いたいとわかったのですが、普通の子供でも歌える早さではないので、しばらくおあづけにしました。堀田先生の「つながりことば歌」の本の方を1ページづつやりだしたら、イラストが面白いと言って、やっと小声で歌いだし、S君の歌える早さで私がピアノを弾いて、一緒に歌うというレッスンで落ち着きました。多動もひどく5分くらいするとすぐ椅子からおりてしまうし、左脳がやられているので右手もかなり動かないのだとわかり、簡単なピアノの訓練も入れることにしました。「言葉遊び歌が発語を促す」の本の巻末のアンパンマンの歌を替え歌にして、ポケモンシリーズをS君のために創作中です。私の所では、このようにすべて個人セッションでやっているの、その子の特徴に合わせて、やり方を工夫するという方法でやっております。堀田メソッドを使い出して今年で八年目になりますが、一番大切なのは、親子さんとのコミュニケーションで、二番目が、セッションだというのが長年の体験でわかったことです。



～発語音楽療法の内容と効果～

発語音楽研究所

代表 堀田喜久男

前回の会報誌にて展開方法を書きました。今回は展開の内容と実践の効果を記します。

1. 日本語の抑揚を生かした歌を歌わせ、多くの1音節（1音節語を含む）、2音節語、3音節語、多音節の発語を促す。1音節語は口形・聴唱法でソの音で母音のアーなどを長く聞かせて発音をさせる。きらきらぼしの曲で身体反応をさせ、各旋律フレーズの7拍目ごとに発音させる。
2音節語の歌は、本（ほん）などの下行形の語はラソラソーのふしで歌わせ、まめ（豆）などの上向形の語はソラソラソーのふしで歌わせる。3音節語は、あひるなどの絵カードを提示し2拍子で、あ、あ、あひるがあるく（ラ、ラ、ソララ、ソララソラミ）などと歌わせ、同時に2語文の習得をさせる。これらに用いたふしは日本語と表裏の関係にある陽旋律法で多くの場合に用いる。
 2. 体の部位の歌：足（あし）などの歌は♪あし、あし、あーし（ソラソラソー）と歌わせ、かた（肩）などの歌は♪かた、かた、かーた（ラソラソラー）と歌わせる。（これはボディーイメージにもつながる）。
 3. 玩具の歌：同種の2個の玩具（中に粒状物を入れマラカス化する）を両手に持たせて拍打ちをしながら♪りんご、りんご、りんごとりんご。などと歌わせ多くの言葉を体得させる。
 4. 数え歌：同種の玩具を並べながら♪1いっこのい～も、にこのい～も～、10このい～もなどと歌わせた後、手の動作を伴って♪いもが全部で10個あります。と言わせる。次に1、2、3、～10と数えさせる。次に1こをしまう、2こをしまう～10こをしまうと言わせる。次に♪いもを全部で10個しまったと言わせる。（抑揚補助技を使用）
 5. 3種カードの歌：指図カードを歌いながら♪10本の指まで並べ、その下に数字カードを10まで並べ、その下に数図カードを10まで並べ、1本の指図、1の数字、1の数図を指指ししながらたてに♪いち、いち、いちと言わせ、数対象と数字、数唱の対応を体得させる（じゅう、じゅう、じゅうまで行う）。
 6. 50玉計数器の歌：玉を1、2、3、～10と言いながら玉を左方に動かす。5段とも同じように動かす（主に順序数の体得）。玉を戻すときは、赤、赤～赤。青、青、～青。黄、黄、～黄。白、白～白。黒、黒～黒と。（色の体得）次に、赤を1、青を1、黄を1、白を1、黒を1と動かし♪1戻す～1戻と言って戻す。5、5、～5まで行ったところで左方の5の前に左手を広げ「5の時は」右方の5の前に右手を広げ「5残る」と言わせ「6の時は4残る」～「10の時は0残る」までを行う（量の数の体得）。次に玉の操作とともに1+1=2、2+1=3～5+5=10などとすべての組み合わせをする。次に2-1=1、3-2=1～10-9=1、10-10=0まで数唱しながら行わせる（加減等の体得）。
 7. 絵本の歌：絵本の言葉の抑揚を補助（ピアノなど）して「きょうはあめふり♪ラソソソソ、のように聞かせる」「おおきなあれ」「せんろはつづく」「あっちゃんあがつく」など児童が喜んで聞いたり、歌ったりする。
 8. 反対語の歌：動詞の反対語140、形容詞の反対語15、時間、空間の反対語18など、絵カードを見ながら言わせる。
 9. 連想しりとり歌：並んだ12コマの絵を見て♪そ～らはあおい→あおいはうみ～くもるはそ～らと最初に戻る。
 10. つながりことば歌：100余りの言葉の個々の言葉の使い方を体得させるために、例えば、「手」では「手をたたく」「手をにぎる」「手を伸ばす」など12のコマ絵を見ながら歌い、言葉を増やす。
 11. 構文（文法）の歌：自動詞構文（犬が走る）、他動詞構文（花子がまりをつく）・・・授受構文（先生は花子に字を教えた）使役文（太郎は犬にそりを引かせた）など11の構文を文図を見て言わせる。
 12. 時計の歌：時計の針を動かしながら♪いちじのじこく～12時のじこくなどと歌わせる。
 13. お金の歌：多くの模擬貨幣を使い、1円玉10個と10円玉1個を左右に置き、左手で「10円」と言って押え、右手で「10円」と言って押え、次に両手で3拍で「同じ」と言わせて、等価関係を理解させる。この方法で多くの貨幣の組み合わせをして、等価関係を進め10円100円1,000円と金額を拡大する。
 14. 絵かき歌：○△□を組み合わせ、歌とともに、おでん、ちょうちょ、ヨット、ねこ、ぶたなどを描かす。
 15. ボール遊びの歌：♪とんとんとんとんボールをつく、くるくるくるくるボールを回すなどと聞かせ、ボール遊びをさせる。
- 児童、とりわけ自閉症児などは、物を並べて遊ぶことを好むので、この傾向を生かし、玩具等を並べる（数え歌など）カードを並べる。玉を動かすなどに使い効果を上げた。
 - リズムは心身の活動を活性化させる働きがある。2拍子の基本的リズムフレーズ（いわゆる三三七拍子）をすべての学習に使い、楽しく積極的に進めることができた。
 - 日本語のアクセントは抑揚アクセントであり、言葉の中にふしがある。これを三三七拍子のリズムに乗せて展開したことは、全体を通して最も効果的であった。
 - 児童の実態に合わせて、視聴覚教材を工夫、開発し活用したことは有効であった。

コラム⑤

央戸理恵

横浜での『第2回日本ことば療法学会』では1日目の素晴らしい5つの講習、2日目のとても興味深い講演、シンポジウム、研究発表など、非常に勉強になるものであった。また、志を同じくする方々との貴重な交流も有り難いものであった。その中でセラピストであるとともに、それ以前の自分個人としても考えさせられたこともあった。

増田光音先生の講習の中で「話が合わないのは、相手から引き出せない自分の未熟さがある」という「おことば」があった。これはセッションはもちろんのことだが、日常の生活の中でも考えさせられることばだった。この場合の未熟さというのは「人としての未熟さや心の未熟さ」や「ことばの技術的な未熟さ」などがあると思われる。様々な場面でこちらが心を開き、温かいことばで人と接するためには、人間を磨かなければならない。想像力も大切である。そして心を伴った上での「ことばの技術」が必要になる。心でいくら思ってもそれを人に伝えられる為に、どんなことばを自分が使用するのか、聞くのか、また、ことば以外の情報のキャッチボールのセンスというか技術もある。ことばの技術は細やかな具体性を持ち、尚且つ、明解な表現でなければ意図することが誰にでも伝わらない。これができればある程度、私の人間的な不器用さ未熟さ、成長の足りない心の未熟さも少しはカバーできるかと思った。私はピアノ演奏などをする機会も多いが、これらは演奏表現にもいえる。心、音楽性と技術。具体的にその音を伝えるための指先、腕、体の動き、フレーズ、意志、耳、全部伝わるような具体性を持つと説得力がでる。このコラムも読む人に明解に伝わっていないところもあるだろう。そうして考えると、文にして客観的に伝わっているかを考えていくことも技術を磨くことになる。これも増田光音先生が仰っていたことです。

発語音楽療法教材 紹介



発語音楽療法のセット

発語を勉強するには
このセットが大変お得です。

本5冊（堀田喜久男著他）
電子本2冊/CD1 DVD 3枚

キラキラ言音堂 →検索

通販サイトよりご購入すると
特典が付いています。



一般社団法人発達支援協会 認定校・教室

■認定教室

- ・埼玉県 【加藤音楽教室】 主宰者 加藤千子 HP <http://syougaiji-ongakukato.jp/>
- ・大阪府 【さゆり音学院】 主宰者 土田靖子 HP <http://www.seepa.jp/u/hatugo-osaka/>
- ・愛知県 【SiSiDo Music room】 主宰者 央戸理恵 HP <http://www.seepa.jp/u/piano-hatugo/>
- ・京都府舞鶴市：【でんでんむしの会】松浦光子 【加藤音楽教室セッションルーム】
- ・三重県 【樋口音楽教室】 主宰者 樋口なおみ
- ・福岡県 【ことばの音楽教室】 主宰者 工藤知子
- ・福岡県 遠賀郡：『りずむの木』 主宰者 石井純子
- ・京都府 舞鶴市：『さがん発語音楽教室』 主宰者 目美香



■認定校

- ・名古屋市【発語音楽研究所】 療育責任者 堀田喜久男 <http://www.hatsugo-ongaku.com/>
- ・東大阪市【児童ディサービス だんげ石切】 療育責任者 深谷靖子 <http://www.danke-day.jp/>

* 発語音楽療法の認定校と教室です。各教室か事務局にお問い合わせ下さい。

認定校・認定教室を全国にて募集しております。電話：052(505)5255



5月10日(日曜日) 場所：だいどうクリニック講堂

企業組合 カトレアサービス主催にて発語音楽療法説明会が開催されました。ことばの療育に関心を持つ約50名の各方面の方々(保育士・言語聴覚士・医療関係・看護師・児童施設スタッフ・音楽療法士他)に向けて基礎セミナーと説明会を開催致しました。

学生やサラリーマンで転職を考えている方にどんな仕事をしたいですか?と尋ねると、楽しい仕事がしたいと言われます。その方は、好きな仕事・自分を生かす仕事をしたいという意味を含めて言っているのですが、中には楽しいを『楽・らく』とはき違えている方もいます。好きな仕事をしていても、時には逃げたくなることも、辞めたくなることも幾度となく経験します。起業して独立すればとか、今の職場を辞めれば楽しい仕事ができるはずだと考えます。自分を磨くという姿勢が全く見られません。自分には向いてない、好きではない(自分で思っているだけですが)などの理由からその仕事を追究することもなく辞めてしまいます。仕事には様々な職業・職種があり、毎日同じことの繰り返しの中でその仕事の価値を自分で発見していかなければ、どんな職についても同じことの繰り返しになります。仕事に真剣に取り組み、多くの困難な山を乗り越えていくことで責任感が芽生え、興味が湧き、結果としてお客様が喜び、それが自分の喜びとなり、人生を豊かにしていくのです。寝食を忘れる位の仕事にであった時に人生の喜びを実感できるのではないのでしょうか。幼少のころから、音楽に携わってそれを生業にされている方、これから新しい仕事をされる方も、その仕事を追究し、価値を見だし、自分磨きに励んで下さい。

事務局 高田

日本ことば療法学会ホームページ

日本ことば療法学会 →検索

事務局:名古屋市西区上小田井 2-98

電話&FAX: 052(505)5255 発行部数: 500部